

# FOREVER CLASSICS II

いつかは乗りたいクラシックアメリカン  
まさに今こそ思い切って乗ってみる？

## Contents

### #1 The knowledge of classics

購入から維持管理までグレイスカブの戸田氏からアドバイス

### #2 What exactly?

現行チャレンジャーから'64年インバラに乗り換えたオーナーのホンネ

## 古いクルマだからって物怖じする必要ナシ!!

NSマガジンの現行モデルを中心に2000年以降に生産されたクルマベースにしたカスタムスタイルが大多数を占めているものの、ビギナーからベテランの一部にはやはりいつかはクラシックアメリカンモデルに乗りたいというユーザーは多い。でも、やっぱり気になるのが故障などのトラブルや維持管理の難しさ。確かにちょっと気を使うところはあるけど、クルマの見極めとショップのサポートさえあれば、決して難しく考える必要はないかも。中部エリアで様々な車種を販売しているグレイスカブでは、代表の戸田氏を含めてスタッフも古いクルマを愛好していて、これまでに培った豊富な経験であらゆる角度からユーザーをサポート。ここではショップの代表兼、'59年キャデラック・デヴィルのオーナーでもある戸田氏にクラシックアメリカンに乗りたいと思っている人にいくつかのアドバイスを聞いてみたので参考にしてみてください。

思い切ってクラシックアメリカンに乗ってみよう  
戸田昌宏 from GRACE CAB

text & photographs by MASAHIRO HAYASHI special thanks to GRACE CAB www.gracecab.jp 0568-35-779

## 国内でも結構探せるクラシックモデル

特別アメリカ車に限ったことではなく、国産や欧州車にも魅力的なクラシックモデルは無数に存在していますが、ここではアメリカのクラシックモデルを中心に話を進めていきます。まずは2019年現在、日本国内でも数多くのクラシックモデルが流通しているのはご存知の通りです。ネットで検索すればたくさんの販売車両の情報がありますが、そもそもこれだけ選べる環境にある背景にもちょっと触れてみましょう。

'80年代後半はファッションも含めてアメリカのカルチャー全体が一般的にもトレンドだった時代がありました。その流れで当然クルマやバイクにも注目が集まり、ホットロッドやローライダーなどのカスタムも一大ムーブメントになり、'90年代にはヒップホップカルチャーともリンクして、ローライダーが特に人気だったこともあって、この時代に数多くのクラシックモデルが輸入されていたと思われます。

同時に、カスタムのみならず当時現行モデルとして販売されていたアストロやサバーバン、C1500などを中心としたクルマも大ブームとなっていたので、街中にはアメリカ車が溢れていました。反面、アメリカ車に乗りたい人はいくらでもいる状況だったので、安易に粗悪車を販売するような業者も急増していたことも事実でしょう。「アメ車はすぐ壊れる」という漠然としたネガティブイメージがなんとなく浸透してしまったのは、こんな背景も原因のひとつといえるでしょう。

反対に、程度の良いクルマをしっかりとメンテナンスを施して乗り続けている人も非常に多く、本当に好きな人も少なくないので、専門店の手厚いサポートを受けているクルマはやはり人気上昇中です。現行モデルのようにボディカラーや仕様まで選べるということは非常に稀ですが、反対に一台一台の個性がハッキリしているので、そのあたりも踏まえて現場のナマの声を聞いてみましょう。

# FOREVER CLASSICS II

いつかは乗りたいクラシックアメリカン  
まさに今こそ思い切って乗ってみる？



### エンジンもインテリアも千差万別

取材時にグレイスキャブに入庫していたクラシックを4台ランダムにピックアップしてみました。エンジンは基本的にV8OHVが搭載されている場合がほとんど。でも、見た目はもちろんのこと、排気量や仕様、アップデートの内容は一台一台全く異なるのも面白いところで、ドレスアップ系のパーツも無数に存在しているので、エンジンで個性を演出するのも醍醐味のひとつ。インテリアもオリジナル調からカスタムまで様々。



## SUBJECT 1

### 実際に購入する前に、車種と年式によるそれぞれの違いを調べよう

まずは購入の前に、どんなクルマが存在しているのかを国内に限らず海外の情報サイトも駆使して探してみましょう。現在と異なり、1970年頃までは一年ごとにモデルチェンジが行われていて、それ以降もマイナーチェンジとはいえ、一年毎に大きくデザインを変えているので、本当に好きな車種と年式をじっくりと選びたいところ。

戸田「せっかく買うなら、できるだけ一台のクルマと長く付き合っていた方が後々後悔することもないと思いますよ。最初にじっくりと車種と年式を絞っておけば、後でこんなクルマもあったんだ！なんてことにもならないですね。年式ごとにデザインや特徴も異なるので、自分のお気に入りを探る作業も楽しんで欲しいですね」。



### Sample

たとえば 1960 ~ 1963 のキャデラッククーペデヴィルのデザイン  
このようにモデルイヤーごとにバツと見は似ているようで、よく細部を確認してみると、ボディの形状やプレスライン、フェイスなどに相違点がいくつも確認できます。これはキャデラックに限らず他のブランドでも同様で、もちろんインテリアも毎年変更があり、他に4ドアやコンバーチブルなどボディスタイルも含めると、かなり幅広い選択肢があることがわかります。

## SUBJECT 2

### 日本で探す場合とアメリカで探す場合の違いなど

実際に欲しいモデルが決まっても、それが必ずいつでも探せるとは限りません。特に人気のないマイナーな車種の場合、アメリカでも探す事が難しい場合も当然ありますし、意外と日本で見つかったりすることもあり、こんなところも含めてクルマ探し自体を楽しむ心の余裕も必要でしょう。では、実際のところ日本で探す場合とアメリカで探した場合の違いなども聞いてみました。

戸田「クルマ探しという点では、今はインターネットを活用できるので、特に違いはないんですけど、購入して手元に届くまでのプロセスに大きな違いがありますよね。これはあくまでも参考程度なんですけど、トータルのコストを考えた場合は、

日本で探した方が断然有利ですよ。アメリカから日本に輸入する場合は、輸送量や関税、アメリカ国内での陸送料など、これらだけでも結構なコストになってきます。さらに、車種によってはアメリカでの相場よりも意外と国内の方が安かったりする場合もあるので、国内で良いクルマが見つければそれに越した事はないと思います。もちろんその反対もありますけど。アメリカ国内で見つかったも、ユーザーさんが直接現地に行き現車を確認することは難しいと思うので、最終的にはプロショップの判断に委ねる部分が多いと思います。実は前号で撮影した'65年のキャデラックは、オーナーも渡米して、現地で車両を確認しました。さらにアメリカの街中を試乗までして購入しています」。

## SUBJECT 3

### 人気車種や比較的入手しやすい車種は？

実はクラシックモデル全般それぞれ個人の好みが強ク反映されるので、特定の人気車種というのは断言できませんが、やはりローライダーのベースとなった'58年から'64年のインバラに関してはダントツで個体数も豊富で人気も衰えることはありません。インバラというワードも比較的知っている人も多いでしょう。では、実際のところはどうなのでしょう。

戸田「やっぱり他の車種と比較すると'58年から'64年までのインバラは安定した人気で、国内でもまだまだ探せる状況ですね。それこそコンディションや仕様、カスタムの内容やそのレベルまで一台一台全く異なるので、じっくりと吟味する必要があります。走らせるための機

関係はもちろんのこと、内外装もかなりアフターマーケットのリプロダクションパーツが存在しているので、一部の年式に限っては極端な話「ボディ以外すべて新品」に近い状態まで仕上げることも可能です。あとはカプリスやC10などを求めるお客さんも多いですね。ちょっと話が逸れますが、'90年代のキャデラックなんかでも生産終了から20年以上が経過していて、フルフレーム設計の最後のモデルでもあるので、ある意味クラシックの分類に入るかと思っています。本当はインバラに乗りたいたいけど...というお客さんがこの年代のキャデラックを購入する場合がありますが、今のクルマにはない乗り味やスタイリングを持っているし、十分魅力的だと思うのでウチでも常に在庫は確保してあります。特に'93年から'96年のプロアムなんかは、本当に好きな人に乗って欲しいですね」。

## SUBJECT 4

### 購入してもやっぱり維持管理が不安!?

いつかは乗ってみたいと常々思いつつも、どうしてもあと一步を踏み出せないという人が多いのも実際のところ。でも実際に乗っている人はたくさんいる訳だし、本当に維持していくことは難しいことなのか、とても気になる場所ですがプロショップとしてはどのようなアドバイスをユーザーにしているのでしょうか。

戸田「確かにイメージとしてはそんな感じかもしれませんが。雨の日も気楽にも気を使わずにガンガン乗り倒したいという人には向いてない面もあるでしょう。ガレージの有無を気にする人も多いですが、とにかく乗りたいという気持ちがあれば是非とも相談してほしいですね。もちろん所有している間に故障などが全くないとはいえませんが、ユーザーさんの志向に合わせて最低限ちゃんと走って曲がって止まるようにメンテナンス、改善

を施した状態に整えることはもちろんのこと、莫大な修理費用が発生する可能性のあるクルマはそもそも仕入れないので、そんなに心配する必要はありませんよ。新しいか旧いだけの違いではないでしょうか。それくらいの気持ちで考えてください。細かいところまで心配していたらキリがないです。当店ではどんなに遠方でも責任を持って購入後のケアも行いますし、クルマに詳しくなくても全く問題ありませんよ」。



昔の構造でもブレーキは現代のシステムにアップデートされている場合も少なくない故障以外にも一番肝心のブレーキの心配もあるかもしれないが、実はマスターシリンダーからすべて現代の2系統のシステム、またはパフォーマンス系にアップデートされている個体も多い。もちろん購入後にアップデートすることも可能。機関系をより良くするパーツはいくらでもあるのだ。

## SUBJECT 5

### 万が一のトラブルも、より一層クルマを良くする時と考える

一台一台のコンディションはもちろん、搭載しているエンジン、トランスミッション、インテリアやオーディオなど、それまでのオーナーによって同じ年式、車種であっても内容は全く異なるのもクラシックモデルの特徴。当然メンテナンスをしっかりと受けてきたか、そうでないかで改善費用にも大きな差となって現れてくるもの。購入の際には車両本体プラス、数十万円の予備費用を考えておくとならざるのトラブルに遭遇しても慌てない。

戸田「欲しいクルマが実際に見つかった購入する前に、こちらでは徹底的にその車両の点検を行い、ウィークポイントをチェックします。あとはどこまで修理していくかは予算と相談しながら優先順位をつけていって実施していくこととなります。どんなに予算が限られていても、点火系（プラグやプラグコード、ディストリビュータキャップなど）やブレーキといった重要項目は交換やメンテナンスを施します。あとは実際に乗りながら気になる部分をその都度改善してい

きながらといった感じで大丈夫です。トラブルに遭遇したら、その部分はちゃんと直せばまた一歩クルマが良くなる訳ですし、その積み重ねも旧いクルマとの楽しい付き合いでもありますよね。今年はサイドモールを新品に交換したとか、バンパーをリクロームしたとか、そうやって着実に綺麗にしていくだけでも十分な満足感を得られますし、それこそがクラシックカーの醍醐味でもあります」。

## SUBJECT 6

### 詳しくなくても自分でチェックできるポイントをいくつか紹介

実際にショップで車両を見ても、どこをどう見ていいかわからないという人がほとんどだと思います。何が良く何が悪いかは、やはり相当な台数を見ていないと判断できないもの。でも、最低限自分の目である程度の判断材料は持っておいた方が安心。

戸田「まずはちょっと離れたところから全体を見渡して見た印象が結構大事だったりします。全体的にビシッとしているかどうかというボディのコンディションの見極めが重要です。自分で確認する場合は、フェンダーやドア、リアクォーターの下部に塗装の浮きなどがいないか見てみるとよいでしょう。あとは床全体の状態もチェックしておきたいポイントです。ドアやボンネット、トランクを開閉してみて違和感がないか、それとメカに詳しくなくてもエンジンオイル、LLC（ロングライフクーラント）の状態をチェックできれば十分ではないでしょうか。



自分でもできるチェックポイントを押さえるビギナーでもちょっとしたポイントをチェックできるようにしておきたいところ。どの車種でも当てはまることだが、ボディでは床下や戸田氏が指を指している部分の状態を見よう。砂埃などが堆積しやすい場所で水分が抜けづらいので、結果サビが発生しやすい。その他、購入後のことも考えてエンジンオイルの量と定期的な交換、LLCの量と状態のチェックは自分でもできるようにしておきたい。

## SUBJECT 7

### どうせなら自分だけの一台を目指して方向性を定めよう

念願のクラシックを購入した後、そのままでは前のオーナーの「色」が残っているので、それらを少しずつ自分の色に染めていって、唯一無二の愛車に育てていきたいところです。レストアを目指してOGスタイルでも良いし、既存のスタイルにとらわれずに自由にカスタムしてほしいところです。

戸田「自分が欲しい一台を見つけられて購入が実現したら、とにかく触って乗って楽しんで欲しいですね。タイヤやガラスを綺麗にしているだけでも十分に見栄えするし、少しでも良いので綺麗

にしていこうと心掛けていれば十分です。メンテナンスなんかはプロショップに任せっきりでも、自分でやれるところは自分でやっても良いですし、とにかく自由に楽しんで欲しいです。カスタムなんかもエアサス、ハイドロ、チョイスするホイールによってガラッと雰囲気も変わるので、クルマを買ってからの楽しみ方は無限大。自分はやっぱりアメリカの流れのように現代のLSエンジンを積んでカスタムインテリアにして…なんていう夢を思い描きながらキャデラックを楽しんでいます。とにかく悩んでいたら乗っちゃいましょう!!!!



#### 戸田氏の愛車は'59年キャデラッククーペデヴィル

最初に入手したクラシックモデルは、'65年のキャデラッククーペデヴィル。そして2台目となる現在の愛車は5年ほど前に国内で入手した'59年キャデラッククーペデヴィル。国内ではオリジナル志向かローライダーが大半を占めているものの、自分がやりたいようにカスタムしながら乗っていくのが信条。今年のクロスファイブのファイナルでは、大胆にボディカラーをチェンジして、インテリアもリメイク。ゆっくりと時間をかけながら愛車を育てている。

## 結論 とにかく気になったら思い切って乗るべし!



#### SPECIAL THANKS GRACE CAB

人気のSUVやトラック、モダンマッスルばかりではなく、かなり幅広いスタイルのアメリカ車全般を得意とするグレイスカブは、豊富な実績と丁寧なアフターフォローで安心してアメリカ車ライフをサポート。クラシックモデルでもカスタムのスタイルはそれぞれの志向を最大限理解してくれるので、変な敷居の高さもまったくないし、もちろんビギナーでも気負いする必要ナン!代表の戸田氏を筆頭に合計4人のクルマ好きは、クルマのことはもちろんのこと、アメリカの情報にも精通しているのでもまずは遊びに行く感覚で訪れてみよう。

#### GRACE CAB

〒486-0949  
愛知県春日井市惣中町3-84-2  
火曜日定休 営業時間10:00-19:00  
TEL 0568-35-7790